



香川県立中央病院
Kagawa Prefectural Central Hospital

れんけい

題字:松尾信彦書

辰 新年ごあいさつ

院長 松本 祐蔵



新年あけましておめでとうございます。日頃より中央病院には多大のご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、昨年は日本にとっては忘れられない試練の年になりました。3月11日に発生した東日本大震災では地震と津波によって2万人近い死者と行方不明者という大惨事になり、土地や建物も大きな損害を被りました。犠牲者のご冥福をお祈りするとともに今なお避難をされている方々の一日も早い復帰を願って止みません。

さらに福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染は未だに収束には至っておらず、国民の不安は募るばかりです。改めて文明の危うさ、ごく普通に過ごしている日常生活の有難さを実感させられました。

当院にとりまして平成23年は波乱の年になりました。3月5日に新病院の起工式が朝日町の現地で行われましたが、直後に大震災が起こり、海岸埋立地という立地から今後起こる可能性の高い地震への対策を再検討することになりました。5月に防災の専門家からの意見を聞くために「新中央病院防災対策検討会議」が設置され、工事も6月から一時中断をされました。その結果、液状化対策として敷地、周辺道路の地盤改良工事や建物敷地のかさ上げ、防災センターの新設などの追加対策を行なうことが決まり、10月に現在地での工事が再開されました。現在、地盤改良工事が急ピッチで行なわれており、まもなく基礎工事、建物本体の工事が始まる予定です。

病院の運営や行事では、東日本大震災の救護、支援活動として発生後ただちにDMAT隊の派遣、その後は救護班、看護師、放射線技師、栄養士、事務職員など総勢24名が現地で活動をしてきました。

当院ではこれらの経験から「災害時対応マニュアル」の再検討をするとともに、10月に行ないました防災訓練では医師会や回生病院のDMAT隊との共同トリアージ訓練も実施しております。4月からは内科、外科を中心に臓器別診療体制をより強化をして患者さんにわかりやすく、より専門的な診療ができるようにいたしました。

地域医療支援病院として医療機関との連携を推進するために地域連携室の人員も増やして、患者サービスの向上とともに患者受け入れがよりスムーズに行なえるように努めており、ファックスでの予約も月400件を超えて増加傾向です。一方では転院先の確保も問題であり、各施設のご協力をお願いいたします。今年は医療セミナーや各科の症例検討会、市民健康講座をさらに充実をする予定にいたしております。11月には第3回目となる病院祭を開催し、入院患者さんをはじめ多くの参加者と楽しいひと時を過ごすことができました。職員やボランティアによる運営も定着をしてきた感じがいたします。

昨年も多くの患者紹介をいただいたことで新入院患者の増加、さらに手術件数の増加によって病院の経営は比較的安定しており、平成23年度も黒字になる予想です。一方では医師不足、看護師不足はなかなか解消されず、職員の負担はさらに大きくなってきており、限界に近い状態です。当院は救命救急センターとして重症の3次救急医療を担当していますが、昨年は3,800人の救急車で患者を受け入れ、このうち2,200人が入院されました。救急外来の受診総数は12,400人になりますが、救急医療は当院に求められる重要な診療機能の一つであり、全職員が協力をして頑張っております。

今年は民主党政権も3代目の首相となり、「社会保障と税の一本化」が議論され、消費税の増額が決まりつつあります。震災復興の財源も必要ですが、国民が安心をして医療が受けられ、安定した生活が送れる社会が実現するように、医療にも十分な予算の配分を期待します。当院では新病院の建設工事の進行とともに、新たな診療機能、設備、職員の配置などの具体的な計画を決定して、移転の準備を整えるなど多くの課題が待っています。2月には卒後臨床研修評価機構の認定更新の審査を受ける予定です。また、11月8日、9日の2日間の予定で全国自治体病院学会が高松で開催されます。香川県支部の自治体病院が協力をして運営をいたしますが、市民公開講座も同時に開催をいたしますので皆様のご参加をお待ちいたします。

このように忙しい1年になりそうですが、引き続き中央病院が地域の拠点病院としての機能を果たせまうように職員一同頑張っておりますので、一層のご支援、ご協力をよろしく申し上げます。

新しい年を迎え、日本の復興が成功することを皆様とともに願って新年のご挨拶といたします。

診療科紹介

心臓血管外科

心臓血管外科
主任部長 多胡 護

心臓血管外科は現在5名の医師で診療を行っています。診療の内容は、弁膜症疾患、冠動脈疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患などに対する外科治療です。

弁膜症疾患に対しては、人工弁置換術、弁形成術、不整脈（心房細動）に対するメイズ手術などを行っています。冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞など）には主に冠動脈バイパス術（心拍動下バイパス術）を行っています。大動脈疾患（胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤、大動脈解離）に対しては、従来からの開胸あるいは開腹による人工血管置換術に加え、3年前よりステントグラフト内挿術を導入し、積極的に行っています。この方法は、手術創が小さく、手術時間も短縮できるため、患者さんにとっては侵襲の少ない手術法といえます。そのため大動脈疾患に対しては、第1選択の治療法となりつつあります。末梢血管疾患（閉塞性動脈硬化症など）に対しては、カテーテルを用いた血管拡張術やバイパス術を行って血流改善を行っています。

近年の循環器疾患の増加に対応できるように、循環器内科との連携を緊密にとりながら、待機的にあるいは緊急時においても迅速に対応できる体制を整えています。

研修医機能評価2回目審査を受けます

平成24年2月29日（水）、一日かけてNPO法人である卒後臨床研修評価機構の審査を受けます。前回の訪問調査は2年前に受け、第一回目の認定証を頂きました。全国の研修指定病院で広まりつつあるこの審査は、88項目に渡る評価項目の設問をクリアすることによって研修内容を向上させ、よりよい研修医を育てていこうというものです。研修医のみならず指導者や指導医や指導科の評価も含まれており、病院のスタッフ全員で良い研修医を育てることを目的としたものです。サーベイヤーの書類確認から始まって合同面接調査、関係部署訪問、研修医インタビュー、最後に講評で終わる予定です。



卒後臨床研修センター運営
委員会委員長 渡邊精四郎

大切なのはこの機能評価を契機に、研修自体を病院内外を含めた皆様が納得できる充実したものに、研修医を守り育てていくことです。今後も引き続き、現場での臨床教育について当院のスタッフのみならず連携病院の方々にも更なるご協力をお願い致します。

機能評価を受ける上で今回、当院で特に注意を要する点としては以下のものです。

- 1) 電子カルテ上、研修医が行った外来や病棟での指示や処置に対して、研修医の記入の後に指導医がOKをいれる「指導医による委譲者承認入力」の徹底
- 2) 診断に至る検査の進め方、治療方法の選択、患者への対応など研修医と指導医とのディスカッションを電子カルテ上に残す。
- 3) カンファレンス記録（表題と出席者のみでも可）やインシデントレポート、ヒアリ・ハット報告の提出。

付記：この度、「研修指導医の秘訣」2011、指導医が知っておきたいポイントとよくあるQ&Aと題して小冊子が上梓されました。当院の研修センター運営委員長も「がん患者看取りを初めて経験する研修医の指導」の実例を分担執筆しています。指導医のみならず研修医にも有用です。当院図書館に配布しましたのでぜひ活用して下さい。

インフルエンザ対策について

呼吸器内科部長 宮脇 裕史

寒さが増し、インフルエンザの流行する時期になりました。インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。風邪と違って症状が重く、幼児や高齢者では死に至ることもあります。

インフルエンザ対策でまず重要なことは、かからないように予防することです。うがい、手洗い、マスク、人混みを避けるなどの対策も重要ですが、最も有効な予防策はワクチンの予防接種です。予防接種でインフルエンザに絶対かからなくなるわけではありませんが、発症をある程度おさえる効果や、重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある方など重症化する可能性が高い方には効果が高いと考えられます。

次に重要なことは、突然の高熱や頭痛、倦怠感などの症状が見られ、インフルエンザが疑われるときは医療機関を早めに受診することです。最近では15分程度の時間で感染が確認できる診断キットにより即座にインフルエンザかどうか分かります。また、気道内などでウイルスの増殖を抑える抗インフルエンザウイルス薬があります。ただし、この薬は発病して二日以内に使う必要があります。

まずは流行が始まる前の予防を心がけ、かかったかなと思ったら早めに医療機関を受診し、適切な診断・治療を受けて下さい。



新中央病院ニュース(大型放射線機器について)

新中央病院に導入する核医学部門と放射線治療部門の機器の入札が昨年12月に行われ、SPECT(シーメンス)、SPECT-CT(シーメンス)、PET-CT(シーメンス)、リニアック(2台:エレクタ、ブレインラボ)という結果になりました。

PET-CTは、新中央病院で初めて導入される機器で、がんの早期診断、転移や再発の診断に有用です。また、現病院では1台であるリニアックを、新病院では2台整備します。そのうちの1台であるブレインラボ社製の「Novalis Tx(ノバリスTx)」は、頭頸部腫瘍だけではなく、肝臓がん、肺がん、脊椎がん、前立腺がんなど、適応するがんの種類が多く、全身のがん治療が可能であるとともに、患部に高エネルギーを集中できるため、治療時間が短く、外来でも治療が可能というメリットがあります。

新中央病院では、他の医療機関の皆様との連携を強化し、高度ながん医療を提供するために必要な医療機器の整備を進めてまいります。



イメージ(Novalis Tx)

看護相談をご利用ください

担当者：溝淵 澄子、桐本 美知子

「おはようございます。如何なさいましたか」の挨拶で毎日、看護相談の業務は始まります。看護相談は患者様の症状に応じた診療科を案内する受診相談、初診・再来患者様への外来受診手続きの支援、来院時に体調不良・急変された患者様への対応、お体をご不自由な患者様の歩行、車椅子移動の介助、院内の案内、交通機関の時刻や近隣施設の場所案内など病院の窓口として様々な業務を担っております。そして、患者様からは色々なご相談やご意見を頂いています。

看護相談は南館1階にあり、看護師2名が月曜から金曜日の8時30分～16時まで担当しています。私達は各診療科の看護師、総合受付など受付窓口の職員と連携を図り、患者様が安全で安心して診療が受けられるよう、患者サービスの向上に努めております。いつでもお気軽にお声をかけてください。



溝淵 看護師



桐本 看護師

医師の人事異動

自己紹介は、
出身大学
卒業年
趣味
抱負です。

転入 1月1日付



山本 修 (心臓血管外科)
岡山大学
平成2年
音楽鑑賞
よろしくお願いします。



佐々木 寛 (消化器・一般外科)
岡山大学
昭和62年
ジムでのトレーニング
まったく新しい土地で右も左もわかりません。短い間となるかもしれませんがどうぞよろしくお願いします。

転出 12月31日付

吉田 修 (消化器・一般外科)

市民公開講座を開催します

B型、C型肝炎の治療とB型肝炎訴訟について

B型肝炎、C型肝炎の基礎知識や肝炎訴訟について専門医・弁護士がわかりやすくお話しします。

講師：札幌緑愛病院肝臓センター所長 川西 輝明 先生

C型肝炎問題を考える会代表代行

B型肝炎訴訟広島弁護団弁護団長 我妻 正規 弁護士

日時：平成24年2月11日(土)10時30分より

場所：県立中央病院南館10階会議室

< 予約不要・参加費無料 >

【お問合せ先】 地域連携室 Tel 087-835-2222(内線587)

Fax 087-861-8181